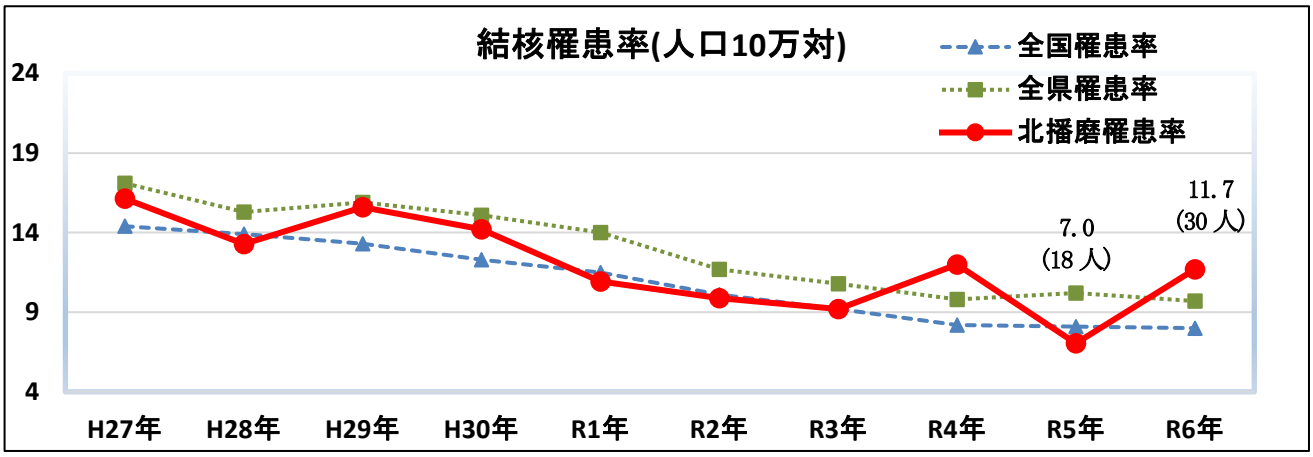
令和6年　北播磨圏域における結核の発生状況

≪結核罹患率の推移≫

全国の罹患率は年々減少し、令和２年には10.0を下回り日本は「結核低蔓延国」となりました。しかし、米国等他の先進国に比べると未だに高い状況であり、年間１万人以上の人が結核を発症しています。

北播磨圏域の結核罹患率は平成27年から総じて減少傾向にありましたが、令和６年は前年に比べ4.7増加(R5:7.0→R6:11.7)し、今後の推移を注視する必要があります。



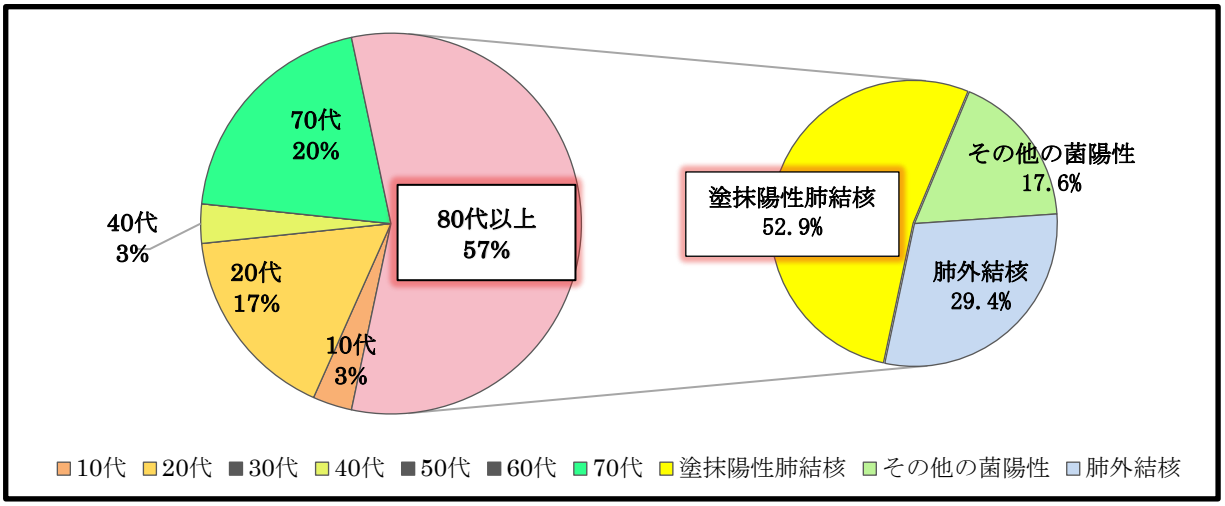
≪年齢別結核患者割合と北播磨圏域の特徴≫

北播磨圏域で令和６年に新たに登録された結核患者のうち65歳以上が80%近くを占めており、その中でも特に80歳以上が50%以上を占めています。

80歳以上の登録患者の活動性分類をみると、感染力の強い喀痰塗抹陽性者が52.9%、その他の菌陽性者が17.6%、肺外結核が29.4%でした。

また、北播磨圏域の特徴として20代の結核患者はベトナム、ミャンマー、インドネシア、フィリピン等の東南アジアの高蔓延国出生者となっています。

保健所ではこれらの結核患者を支援するため、結核に関する正しい知識の普及啓発や、適切な治療を受けるための支援を行っています。

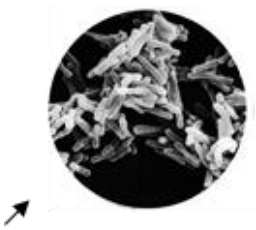


≪結核の主な症状≫

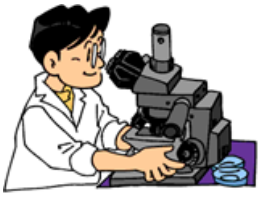
結核は結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気で、風邪に似た症状で始まります！！
特に高齢者は、自覚症状がなかったり無症状の場合もあるので注意が必要です。

≪結核の診断≫

結核の診断は、主に結核菌検査(喀痰検査)と胸部レントゲン検査で行います。



これが結核菌



結核菌検査

胸部 X 線検査

結核菌検査では、痰を顕微鏡で結核菌がいるか調べる塗抹検査（即日結果判明）や、培養して生きた結核菌の有無を調べる培養検査(通常の場合、4～8 週間で結果判明)、菌の遺伝子を調べて結核菌か非結核性抗酸菌か判別する拡酸増幅法検査(PCR 検査)などを行います。

痰の中に多く結核菌がいる場合(塗抹陽性)、他者への感染力が強いと考えられ入院治療となりますが、軽症の肺結核(塗抹陰性)と結核菌を外に出していない肺外結核(結核性胸膜炎、頸部リンパ節結核等)は外来治療が可能です。痰の他に、胸水や気管支洗浄液などを調べることもあります。

保健所からのお願い

◆結核は早期発見・早期治療が重要なため、年 1 回は胸部レントゲン検査をお願いします！
◆風邪様の症状(咳・痰)が長引く時は、結核を疑い≪**喀痰検査**≫をご検討ください！

※結核は 2 類感染症のため診断した場合は直ちに最寄りの保健所への届出が必要です。

【結核に関するお問い合わせ先】
加東健康福祉事務所（加東保健所）健康管理課
TEL：0795-42-9436　FAX:0795-42-6228